

神奈川	都道府県	国立・公立	私立	(フリガナ)
学校名			担当者氏名	
K 小学校			M 先生	

活動内容

学年 3 学年

単元 分数「分けた大きさの表し方を考えよう」

単元目標 分数の意味とその表し方について理解するとともに、端数部分の大きさや等分して
できる部分の大きさなどを表すときに分数を適切に用いる能力を身につける。

指導計画 (全 10 時間)

分けた大きさの表し方

(端数部分の分数での表し方、「分数」「分母」「分子」の用語の意味理解)・・・3 時間

分数の大きさの表し方(単位量の大きさを分数で表す、分数と小数の関係)・・・3 時間

分数のたし算とひき算・・・2 時間

まとめ・・・2 時間

実践

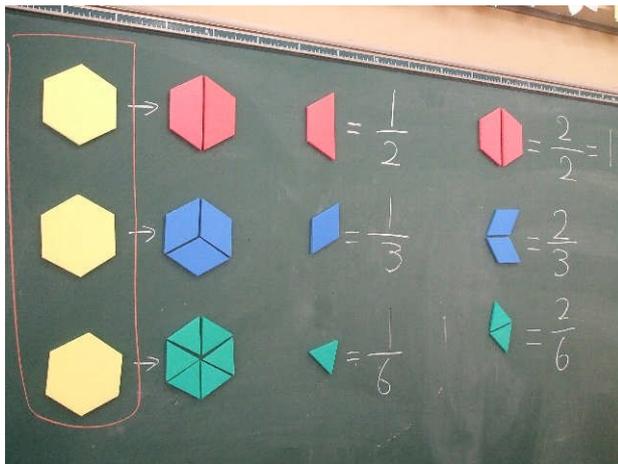
本単元の導入では、リンゴやピザなどの身近な物を分ける経験を元に、「等分する」ことについて理解させた後、テープ図を用いて分数で表す活動を展開した。児童一人ひとりに 1 m の紙テープを配り、実際に操作しながら $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{1}{4}$ の大きさを確かめていった。

指導をして感じたことは、児童にとってテープは思ったより扱いにくいこと、 $\frac{1}{3}$ などの分数を作りにくい(折りにくい)ことである。また一度折り目をつけると、繰り返し使いにくいことも分かった。

そこでパターンブロックを用意し、児童に操作させた。黄色(正六角形)を 1 と見て、赤が $\frac{1}{2}$ 、青が $\frac{1}{3}$ 、緑が $\frac{1}{6}$ 、ということに気づかせようというねらいである。しかし、配布するとすぐに児童は敷き詰めて遊び出し、すぐにその関係を見つけ出した。

細かい説明が無くても、実際に触れて活動しているうちに児童自身が課題解決の糸口を見つけていくという、パターンブロックのよさを改めて知った一場面だった。





授業では、「赤 2 個分が黄色」、「青 3 個分が黄色」、「緑 6 個分で黄色」という児童の反応をもとに、黄色を『1』と見た場合の分数での表し方を学習した。この学習が次のたし算とひき算の学習と結びつき、効果的だったと思う。

実践（分数のたし算とひき算）

ブロックを操作することで、分数でも加法や減法ができることの理解が深まったようである。特に、「分母と分子が同じ数なら、1」という理解に大きな効果がみられた。ここでは「同じ色どうしなら計算しやすい」という内容までとしたが、通分できることまで気づいた児童も数名いた。今後の分数学習への発展も期待できる。

実践をふりかえって

本単元ではおもに、1 m や 1 L などの量の大きさがはっきりとしたもので分数を考えてきた。1 m のテープを児童に渡して指導したときにも感じたことだが、「量としての分数」= 分数 と思っている児童が多いようである。量の単位をはずし、数としての分数へと抽象化していく必要を感じた。その点でも、パターンブロックは効果的な教材だと感じた。

感想

パターンブロックを知り、購入してすぐの実践だったため、教材の特徴を十分に理解していなかったことは否めない。しかし、児童の反応を見ながらこの教材の魅力や可能性を実感することができた。今夏には職員での研修会も予定している。よりよい算数的活動ができるように、実践を積み重ねていきたいと思う。